

空き家を通じて 地元の地域活性を目指します

福井県美浜町 特定非営利活動法人 ふるさと福井サポートセンター

はじめに

空き家とそこの住みたい人とをマッチングする団体で、空き家は壊すより残した方が未



空き家の片付けイベント 作業風景①

来につながるという思いからスタートしました。現在、私たちの想像以上のスピードで空き家は増え続けており、社会問題となっております。

老朽化してしまう前の空き家への対応に切り替え、空き家所有者へ早期決断を促す活動、年3回の空き家マッチングツアーの開催、空き家の片付けイベント等を通じ、地域の地域活性化を目指します。

取り組みについて

私たちは、2011年より福井県美浜町の空き家問題解決のために活動している団体、NPO法人ふるさと福井サポートセンターです。活動当時より、空き家問題は地域の課題



空き家の片付けイベント 作業風景②

として認識され始め、2000年に空家特措法が制定、2023年に改正されるなど、現在では日本全体の大きな課題として取り上げられています。

私たちの主な活動は、年3回定期的に行っている「空き家マッチングツアー」です。空き家を掘り起こし、所有者に決断を促し、同時に





空き家の片付けイベント 作業風景③

ツアー参加者を募集してツアーを実施します。ツアーでは1日かけて、5件〜7件の物件を20〜30名の参加者に見学してもらい、その後気に入った物件があれば、所有者や地域とマッチングするという流れです。現在87件のマッチングに成功しています。

そんな私たちが活動の中で直面した現実が2つあります。

1. 空き家のほとんどは、所有者の問題の先送りで放置される
2. 所有者は関係性の強い人の言葉に影響を受ける

1つ目の現実、空き家として確認されてい

る数よりも大幅に、空き家バンクや流通に出る物件が少ないということです。使う予定がなければ解体や売りに出すのがよいと簡単に思いますが、実際に所有者という立場になると決断することが難しいのが現実です。

2つ目の現実、わかりにくいので例を挙げて説明します。私たちNPOや役場職員が、空き家の所有者に向けて「空き家は放置せず、なんらかの方向性をつけましょう」とあらゆる手段で伝え、時間をかけて行く末の決断を促します。しかし所有者が近所の方にそのことを相談すると「まだ決めるのは早い」という返事もらい、近所に迷惑をかけたくない思いから決断を先送りするケースがあります。また、関係性の薄い私たちの意見には耳を貸さず、関係性の強い区長さんや友だちの意見に同調します。決断を促す存在は、所有者にとって関係性の強い方であるというのが現実です。

この2つの現実から、空き家問題は一筋縄では解決しない複雑なものと捉えています。様々な解決策を探り、辿り着いた結果「急がば回れの空き家対策が効果的」という答えを導きだしました。「急がば回れの取り組み」は、大きく分けて以下の2つがあります。

1. 広く、間接的に空き家の正しい情報を伝える
2. ワンストップキーマンの創出



空き家マッチングツアーの様子



美浜町空き家マッチングツアーの様子



空き家実態調査（空き家掘り起こし）の様子

まずは広く、間接的に空き家の正しい情報を伝えることです。関係性の薄い人たちの直接的なアプローチは、所有者の決断にとって効果的でないため、間接的なアプローチを取り入れました。具体的には、空き家問題の正しい情報を伝える際に「あなたから、空き家問題に困っている方に教えてあげてほしい」というメッセージを盛り込むことです。これにより聞いた本人が、現在は空き家問題を他人事として捉えていても、正しい情報を伝えるという行為を通じて、いずれ自分事として認識する予備知識となります。また、人は知った情報を関係性のある人に教えたいという情報伝達の欲求、共有の欲求を持っているため、この欲求を逆手に取りました。

次に、ワンストップキーマンの創出です。所有者が相談するのは関係性の強い人である

ということを活かし、様々な人と関係性を強く持っている方とのネットワーク構築に力を入れました。具体的には、区長さんや町内会長さん、役場や社協など公的機関、地元ニュースが流れるケーブルテレビなどです。相談を受けた際、その情報がNPOに伝達されるような関係性を構築しました。いわゆるワンストップの存在です。

これらの取り組みを実施した結果、マッチングの数は87組に増えました。私たちは成果を数のみで捉えていません。数よりも町がどう動いたか、どう変わったかを重視しています。その成果として、美浜町にある38の集落の中から空き家ゼロの集落が生まれました。そして、マッチングツアーを通じて移住された方がまちの魅力を仲間に加え、次のマッチングツアーの参加者を増やしてくれる役割を担ってくれています。いわゆる移住者が移住者を呼ぶという効果です。

その流れから、移住者に対して抵抗があった地域も、地元の活動に協力してくれる移住者の姿を見て、「いいひとに来てもらった」という声につながり、空き家に移住者が住むことに対する抵抗がなくなり、空き家の掘り起こしに対する自主的な活動につながり始めました。この双方の声が出ることによって、今まで自分事として考えられなかった空き家問

題を、自然な形で受け止められるようになってきたことが大きな成果です。

多くの関係者のおかげで、数字的な成果だけでなく、プロセスの成果も出るようになりました。「急がば回れの空き家対策」を体系化し、2022年からは高知県や静岡県の市町でもふるさと福井サポートセンターと同様の取り組みをしています。他の市町村でも活用できる取り組みとして広め、空き家問題に取り組む地域に火をともしような活動を続けていきたいと考えています。

（特定非営利活動法人ふるさと福井

サポートセンター 理事長 北山大志郎）



空き家の勉強会（社協）